



平成 29 年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課
農産安全管理課農薬対策室

新年を迎え、次期作に向けた準備を始めるころであるが、平成 30 年病害虫防除対策を検討するにあたり、平成 29 年の気象経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、平成 29 年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（警報、注意報、特殊報）について、別表に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋）

1 2017 年（平成 29 年）冬（2016 年 12 月～2017 年 2 月）の特徴

（1）寒気の南下が弱く、気温の高い日が多かったため、全国的に暖冬となった。一時的な強い寒気の南下があり、北日本では冬の前半に、東日本以西では冬の後半に低温となる時期があり、気温の変動が大きかった。

（2）冬の降雪量は、北日本日本海側ではかなり少なく、東日本日本海側では少なかった。西日本日本海側では、大雪となる時期があったが、期間を通じて平年並だった。

（3）東・西日本太平洋側では、冬の後半に、低気圧の影響を受けることが少なく、高気圧に覆われることが多かったため、日照時間がかなり多かった。

2 2017 年（平成 29 年）春（3～5 月）の特徴

（1）本州付近では南から暖かい空気が流れ込みやすく、高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、春の平均気温は北・東・西日本で高かった。

（2）日本の北と南の海上を低気圧が通りやすく、本州付近では高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。このため、春の降水量は北・東日本日本海側でかなり少なく、春の日照時間は東日本と西日本日本海側でかなり多かった。

3 2017 年（平成 29 年）夏（6～8 月）の特徴

（1）日本の南の海上では太平洋高気圧の西への張り出しが強く、本州付近には西寄りの暖かい空気が流れ込みやすかったため、東・西日本で夏の平均気温は高かった。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、夏の平均気温はかなり高かった。

（2）低気圧や前線の影響を受けやすかったため、夏の降水量は東日本日本海側でかなり多く北日本日本海側で多かったが、梅雨前線の影響を受けにくかった東日本太平洋側と西日本日本海側の夏の降水量は少なかった。

（3）梅雨前線の活動が活発となった時期があり、また湿った気流や上空の寒気等の影響で、全国的に大雨となった所があった。7 月 5～6 日には「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」が発生した。

（4）北・東日本太平洋側では、6 月と 7 月は梅雨前線の影響を受けにくく月間日照時間が多かったが、8 月上旬から中旬を中心にオホーツク海高気圧が出現したため、北・東日本太平洋側の 8 月の日照時間はかなり少なかった。

4 2017 年（平成 29 年）秋（9～11 月）の特徴

（1）気温は、日本の南東の海上で太平洋高気圧の勢力が強く、沖縄・奄美では南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、かなり高かった。一方、北日本では寒気の影響を受けやすく、気温が低かった。

（2）降水量は、活発な秋雨前線と台風の影響で、全国的に多く、西日本と東日本太平洋側でかなり多かった。

（3）日照時間は、9 月から 10 月にかけて秋雨前線が停滞しやすかった西日本でかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった。

（参照）

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma/press/index.html?t=1&y=29>

II 作物別の病害虫発生状況の概要（表-1）

1 水稲病害虫（表-2(1)①）

病害：平成 29 年は、8 月上中旬に東日本太平洋側を中心に低温・日照不足に見舞われたことから、メディア

Occurrence of Pests and Diseases and Their Control in 2017 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：平成 29 年度、病害虫、発生動向、農薬、出荷状況）